

(案)

令和元年東日本台風による浸水の検証について

【市民意見募集結果】

- 1 概要
- 2 共通部門
- 3 下水道部門
- 4 河川部門

令和2年4月8日

川崎市上下水道局
建設緑政局

令和元年東日本台風による浸水の検証に関する市民意見募集結果

概要

1 概要

(1) 募集期間

令和2年3月18日から3月27日まで(10日間)

(2) 回答件数

158件(インターネット・電子メール99件、FAX12件、郵送12件、持参35件)

年代別内訳

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	回答無
件数	6	4	13	30	42	27	19	5	12

地域別内訳

	川崎区	幸区	中原区	高津区	多摩区	宮前区	麻生区	市外	回答無
件数	7	2	31	11	98	0	1	1	7

(3) 本市の考え方の公表の区分

	A	B	C	D	E
区分	報告書に反映させたもの	御意見の趣旨が案に沿ったものであり、御意見を踏まえ取組を推進するもの	今後の浸水対策を進めていく中で、参考とするもの	案に対する質問・要望の御意見であり、案の内容を説明するもの	その他

2 共通部門

2-1 市民意見の集計結果

No.	内容	意見数	A	B	C	D	E
1	検証委員会の在り方について	71	0	14	6	50	1
2	市民意見募集の方法について	22	0	0	8	14	0
	合計	93	0	14	14	64	1

2-2 市民意見に対する本市の考え方

1. 検証委員会の在り方について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・検証委員会メンバーが市職員及びその関係者のみの検証では納得できません。被災者代表も含め又、中立的な専門家を加えた検証委員会による公正な検証を求めます。 ・市の内部だけの委員による組織は、市を擁護するものと勘違いされる。外部の人をいれた第三者委員会にすることで、公平性が保たれると考える。 ・被害にあった住民は多摩川からの逆流を阻止できなかったのかという点で川崎市の責任を追及している。責任の所在は司法ないし第三者委員会が担うものであり、市が主体となった検証委員会では意味をなさない。住民を入れた第三者委員会を立ち上げることを要求する。 ・検証委員会、及び第三者委員会のメンバーが全て市の関係者で構成されているが、実際に被害を受けた当事者の市民が1人もいない人選は不公正です。しかも、台風当時の状況を見てもなく調査に来てもないのではないかと思います。これでは正確な状況判断と今後の対策は立てられないのではないのでしょうか。 	<p>浸水の検証委員会は、原因の検証を行うとともに、今夏の台風シーズンまでに短期的な対策などを実施するため、スピード感をもって検証を進めていくこととしたものです。</p> <p>客観性と透明性を確保することが重要であるため、今回の検証においては、下水道や河川を専門とする第三者の意見聴取や、市民の方々からの御意見を伺いながら結果をとりまとめております。</p>

2. 市民意見募集の方法について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・専門家の方が3週間前後かかって出した答申を、普通の素人の一市民が10日間で意見を整理してコメントを書くことが可能かよく考えていただきたい。市は、答申についてのコメントを求めたという既成事実を作りたいために行っていると言えない、また、字数を制限しないで、しかも、期間を少なくとも答申を出すまでに必要とした期間以上かけて行うべきと考える。 ・今回の意見聴取は、その課題の重要性に見合った規模で市民に対する告知や聴取が行われているとは言い難い。とりわけパブリックコメントの募集期間が短いことは問題であるので、延長するかもしくは再度機会を設け、引き続き意見を市民に求めるべきである。 ・市民意見募集の期間が短いと思います。被災地域の市民がきちんと向き合えるだけの情報提供の量と時間が保証されてしかるべきだと思います。 	<p>市民意見も踏まえた検証結果の取りまとめを速やかに行い、今後の浸水対策の検討や実施に注力するため、市民意見募集の期間は、10日間としました。</p> <p>ただ、この市民意見募集とは別に、今後の中長期的な浸水対策等の参考とさせていただくため、引き続き、特設ウェブサイト「市民の皆様の声」にて意見を募集するほか、住民説明会等これ以外の機会に御意見をいただいた場合にも、真摯に受け止めさせていただきます。</p>

3 下水道部門

3-1 市民意見の集計結果

No.	内容	意見数	A	B	C	D	E
3	本市の責任・補償について	34	0	0	34	0	0
4	被害の概要について	4	0	0	0	4	0
5	組織・活動体制について(各排水樋管における活動を含む。)	49	0	5	0	38	6
6	各排水樋管のゲート操作について	36	0	0	0	36	0
7	浸水原因について	10	0	3	0	6	1
8	浸水シミュレーションによる検証について	28	1	7	0	19	1
9	樋管ゲートの改良について(扉体の改良)	4	0	2	2	0	0
10	観測機器の設置について	13	0	9	4	0	0
11	遠方制御化について	17	0	12	5	0	0
12	停電時におけるゲート操作及び観測機器の対応について	10	2	7	1	0	0
13	排水ポンプ車導入について	21	0	9	11	0	1
14	ゲート操作手順の見直しについて	20	1	10	1	8	0
15	短期的対策による効果の検証について	17	0	12	2	1	2
16	中長期的な対策の方向性について	29	0	6	21	0	2
17	河川管理施設に係る国の通知について	16	0	2	0	13	1
18	住民への説明・周知について	14	0	0	12	0	2
19	多摩川について	6	0	0	1	0	5
20	内水ハザードマップについて	1	0	1	0	0	0
21	再発防止について	51	0	28	7	7	9
22	その他	26	0	3	4	8	11
	合計	406	4	116	105	140	41

3-2 報告書に反映させた意見

No.	内容	対象となる市民意見	意見を踏まえた川崎市の対応	区分
8	浸水シミュレーションによる検証について	理論上だけでなく、実際の各種測定を増やしてシミュレーション精度を上げるようにすべきである。19号級程でないとしても増水機会はあると考えられ、これらの実測データを用いることで精度を向上させて頂きたい。	台風等発生時における外水位計、内水位計等の計測機器の観測データを蓄積することで、今後の浸水対策の検討に活用できると考えております。そのため、いただいた御意見を踏まえ、12. 2. 観測機器の設置において、蓄積した観測データを今後の浸水対策の検討に活用していく方向性を追記しました(P138)。	A
12	停電時におけるゲート操作及び観測機器の対応について	電動化になっても万が一の時は、手動も可能だと思いますが、その訓練は行われていますか？	排水樋管ゲートの電動化については、停電等により電動による操作ができなくなった場合、手動操作ができます。停電時の対応については、操作訓練を実施することが重要だと考えております。そのため、いただいた御意見を踏まえ、12. 4停電時等におけるゲート操作及び観測機器において、停電時等の対応を追加し、確実に手動操作が行えるよう訓練を実施していく旨を追記しました(P143)。	A
		ゲートの開閉にトルクの強い動力機械に変えるのはよい考えと思う。ただ、台風時は停電、断線が起ころうるので、機側操作の設備も必要と思う。	ゲート施設の停電時や故障時への対応については、事前に準備することが重要だと考えております。そのため、12. 4停電時等におけるゲート操作及び観測機器にて、停電時への対応として可搬式発電機による電力供給を行う旨を記載しておりますが、いただいた御意見を踏まえ、さらに断線などの不具合により電力供給できない場合への対応として、ポータブル式の開閉補助器具により操作することを追記しました(P143)。	A

No.	内容	対象となる市民意見	意見を踏まえた川崎市の対応	区分
14	ゲート操作手順の見直しについて	ゲート閉鎖時に河川水位(外水位)が最低地盤高を超えていても、内水位がさらに高い場合があるため、このときにはゲートを少し開けて流向を確認し、順流が確認できればゲートを全開するとしてはどうか。	ゲートの操作手順については、逆流の防止とともに内水の排除をより適切に行えるよう見直しを行うことが重要だと考えております。そのため、いただいた御意見を踏まえ、12. 6. 3操作手順案(観測機器導入後)にて、河川水位が下降し今後水位上昇が見込まれない場合、河川水位が内水位を下回り河川水位が最低地盤高を超える状況においては、順流を確認しながらゲート開とするよう修正しました。 また、この場合において逆流が生じた際は、ゲートを閉鎖することを追記しました(P155、170、171)。	A

3-3 市民意見に対する本市の考え方

3. 本市の責任・補償について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市は市民からの責任を追及する声に対して真摯に耳を傾け、第三者を交えた検証を再度行うとともに、被害を受けた住民の方々に対して、十分な支援と補償を行って欲しい。 ・大雨警報によって、今後起こるかどうかわからない仮定の内水氾濫を想定してゲートを全開にしたままの判断が今回の被害を大きくした原因であることを川崎市は率直に認め被災者住民に対し謝罪と賠償をすべきと考えています。 ・全体として、再発防止策の提示には力が入っているが、国交省の通達を黙殺していたことや、台風当日の組織・体制が不十分なものであった点など、列挙すれば幾つもの過失の上に発生したものである。被害を受けた住民から賠償請求があったら、これに真摯に答えるべきである。 	<p>今回の浸水被害は、本市が想定していた以上に多摩川の水位が上昇したことに伴って発生したものであり、市として補償や賠償を行うことは難しいものと考えております。</p>

4. 被害の概要について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・諏訪地区における台風9号・台風21号の床下浸水被害数は正確でしょうか？私共の所有物件には、当時調査はありませんでした。 ・どれほどの市民がどのように被害を受けたのか全く見えてこない。 ・被害状況の把握については、「大雑把」と言う言葉で表現するしかなく、大筋で間違いでは無いが、細かな見落としが多々ある。 	<p>過去の台風の被害については、「川崎市の災害概要」を参照したものです。</p> <p>被害の把握につきましては、5. 被害の概要に記載のとおり、台風当日の本市職員による確認と、各区役所において発行している罹災証明をもとに浸水範囲を把握しております。</p> <p>また、国土地理院が台風直後に撮影した写真などにより、土砂の堆積状況などを把握しているところです。</p>

5. 組織・活動体制について(各排水樋管における活動を含む。)

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・台風当日逆流している多摩川を見ていた市の職員の方が水門を閉めたくとも上からの指示がないと閉められないと言っていた。職員同士の連絡が密に出来ていたのでしょうか。 ・パトロールを過去の浸水から3班体制にしたとあるが、台風の規模は予めわかっているのに、なぜ最悪の自体に備えないのか。 ・パトロール体制について、諏訪地区には19時以降配置が少ないが、事務所に戻って打合せしていたのか？被害が拡大していた時間に、現場に人が少ない状況は考えられない。打合せは、現場付近の施設等を使うなど臨機応変に対応してほしい。 ・当日の区・住民等へ声掛け実施とあるが、具体的に「だれにいつ、どのように」実施したのか。10/12当日午後、市の職員の姿を見かけていないし声掛け等の対応もなかった。 ・住民の生命に関わる問題なのだから、抜本的に人員配置を見直して、強化すべき。 	<p>ゲート操作の判断については、各種情報を踏まえ行うこととしており、適宜現場状況の共有を行ってまいりました。また、山王・諏訪排水樋管付近においては、浸水発生前より現場の水位情報を各区役所危機管理担当へ連絡を行っており、住民等への声掛けにつきましても、排水樋管周辺の住民の方々へ実施してまいりました。</p> <p>パトロールにつきましても、事前に台風への体制を構築してまいりましたが、浸水被害の拡大により、西部・北部下水道管理事務所に応援要請をして対応したところです。</p> <p>今回の事象を踏まえ、大規模な災害の発生が予見される場合は、より効果的に活動を行うことが重要であることから、13. 活動体制の見直しにおいて局内における応援体制の検討を行っており、今後災害時の対応を強化いたします。</p>

6. 各排水樋管のゲート操作について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年10月台風21号の被害を受け検討を開始とあるが、にもかかわらずこのような有り様である。地元住民の声に誠実に耳を傾けて対応していただきたい。 ・検証の目的は、排水樋管の操作要項にある「操作の目的」に照らして、操作方法及び操作手順が適切であったか振り返るべきである。樋管のゲート操作は、逆流を防止することを目的としていることを正面に据えるべきである。 ・当日15時に、街中の水位が上昇した為、現地にいた下水道職員に排水樋管ゲートを閉じるよう指示したが内水が排出できなくなるのでゲートは閉められないと回答された。外水が浸入してきているのに内水が排出できるわけがなく、物事の現象や状況を理解できない職員がパトロールをしても意味がなく、マニュアルのとおりには判断と行動が出来ないようでは、都度変化する自然災害に対応ができるはずがない。 ・多摩川からの逆流が始まったら、降雨状況、内水氾濫の可能性の有無にかかわらず、排水樋管ゲートを閉めなくてはならない。総合的判断などありえない。このような事態を起こしてしまったのであるから、樋管ゲートの操作について部署内の要領ではなく全市で内容を承認する文書(操作規程、操作規則等)にして定めるべきと思う。 ・山王以外のゲート操作はほぼ同じ時刻で同じ判断がされているが、これがそれぞれの場所の実情に応じた個別の判断できめ細かく開閉されていれば、たとえ内水の氾濫が発生しても各地で最小限に食い止められたことは自明である。 	<p>平成29年の浸水被害については、関係局区との災害情報に関する連携や新たにバイパス管の整備に向けた取組等を進めてまいりました。今回の事象を踏まえ、各排水樋管における水位や流向等を把握するための観測機器を設置いたします。今後のゲート操作は、観測機器を活用し、各排水樋管ごとの状況により開閉の判断を行なうことが可能となり、逆流させないことを原則として、よりきめ細やかな対応が可能となります。</p>

7. 浸水原因について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・資料98において、「下水道は暗渠であり、順流、逆流の判断は難しく」とあります。しかし、地盤高と多摩川水位の関係は十二分に把握しているはずで、多摩川の水位が1m以上上がっているのにどちらへ流れているかわからないなど詭弁に過ぎません。このような現場擁護のために付け加えたような文言は、検証の名に値しません。意味の無い文言です。削除してください。</p>	<p>順流、逆流の判断につきましては、10-1. 浸水シミュレーションの目的に記載のとおり、内陸側の降雨状況や、多摩川の水位状況により、順流も逆流も発生する場合があります。</p> <p>河川水の逆流防止及び内水排除の判断を行うためには、観測機器の設置による外水(河川)・内水位及び水の流れ方向(流向)を確実に把握することが重要だと考えておりますので、着実に取組を進めてまいります。</p>

8. 浸水シミュレーションによる検証について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・シミュレーションは設定によって結果が大きく違ってくる場合があります。お金をかけても、第三者機関に依頼していくつかのシミュレーションを行うべきだ。その結果を信用して、不十分な対策で終わり、また同じような被害になってしまったら「想定であった」では済まされない。</p> <p>・シミュレーションは、ゲートを閉じていたら被害が大きくなる場合があるかのように結論を導く設定となっており、信用できない。当日の降雨の状況は、川崎市域においては予報よりも早くに治まっておりシミュレーションの設定とは乖離があり、実態を反映していない。また、川崎市による誤った操作判断の時系列に当てはめたシミュレーションになっており、河川の逆流が始まるギリギリまで「ゲート開」を維持し、極力雨水を逃す努力をした後、逆流確認時点で「ゲート閉」に切り替えるベストの選択をした場合は、いずれの地域でも被害が小さくなるであろうことは容易に推測できる。市街地の雨水が逃げ場を失っているところに、河川の逆流が追い打ちをかければ、被害が拡大するのが当然であり、このシミュレーションは実態を捻じ曲げる設定に基づいて都合の良い結論を導き出したものと見なさざるを得ない。</p> <p>・シミュレーションにより被害の状況が少しでも再現できることは良い。ただ、今回のシミュレーションは、水害のみであった。山王町2丁目、泥による堆積被害も大きかった。水より泥のシミュレーションを行うことで樋管の開閉の重要性がより明確になるものと考えます。また、実際の被害と整合性も考えると、被害者の実態調査も行うことが大事である。</p>	<p>シミュレーションによる検証につきましては、10-2-1. 浸水シミュレーションの概要に記載のとおり、計算条件や降雨、河川水位を条件として、浸水範囲や浸水深、航空写真等を比較するとともに、罹災証明を参照し、解析のベースとなるモデルの再現性を第三者にも確認しております。</p> <p>また、再現性を確認したモデルに当日の気象予報を踏まえた仮定条件を与えた結果をお示ししています。</p> <p>さらに、泥の堆積による被害も大きかったことから、湛水量(溜まった水の量)に対する河川水の量についても算出しております。</p>

9. 樋管ゲートの改良について(扉体の改良)

主な市民意見	川崎市の考え
・想定しているポンプ車の能力では不安が残るため、配置数も倍増するくらいのゆとりある対応を求める。また、車両ではなく排水ポンプ付きのゲートの改良する方策も検討いただきたい。	排水ポンプ付きのゲートについては、新たな用地確保なども必要となることから、中長期的対策のひとつとして検討してまいります。

10. 観測機器の設置について

主な市民意見	川崎市の考え
・現在は各地域の住民が自主的に止水板/土のう設置等のタイミングを判断するための情報が不足しているため、マンホールアンテナを各地域の低い場所を中心に設置し、水位情報をインターネット経由でリアルタイムで取得できるようにすることを検討していただきたい。(例えば中原消防署交差点などに)	各排水樋管周辺の低い場所への水位計の設置については、詳細な設置場所及びインターネットを含めた情報の取得方法の検討をしてまいります。

11. 遠方制御化について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・職員の安全を守りつつ、現地操作も可能な距離に遠方制御の監視場所を置く必要があると思う。加瀬では遠くないか。短期対策とあるが、中期的な対策に位置付けて、新たな監視センターを樋管の近くに設ける方が良いと思う。</p> <p>・遠方制御化はいいが、万が一の時は絶対に人力が必要なので、現場に人の配置は必須。操作員の安全確保については、近くの企業等場所の提供を依頼するなどを検討。</p>	<p>監視場所については、5箇所の排水樋管を所管している中部下水道事務所で監視・制御できるようにするほか、遠方制御の体制を確実なものとするため、本庁舎および加瀬・等々力水処理センターにおいても監視できるように計画しております。</p> <p>ゲートの電動化や観測機器を設置することにより遠方制御が可能となりますが、ゲート操作については、現場(排水樋管)に操作員を配置し、現地操作を原則としております。また、操作員の安全確保については、排水樋管近くの中部下水道事務所や避難所を退避場所としております。</p>

12. 停電時におけるゲート操作及び観測機器の対応について

主な市民意見	川崎市の考え
・電源喪失時にも、ゲート開閉の実行が困難になることの無いよう、最悪の場合に手動でも開閉の目的を達成できるシステムにする事が、本当の防災対策である。	電源喪失時のゲート操作につきましては、可搬式発電機による電力供給を行うとともに、ポータブル式の開閉補助器具による手動操作での対応を行います。また、確実にゲート操作が行えるよう、適宜訓練を実施してまいります。

13. 排水ポンプ車導入について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・排水ポンプ車の対応について、どれだけカバーできるのか？樋門ごとに1台程度で賄えるものか？もっと数を増やさなくてよいのか？必要性があるならば、しっかり必要数を明らかにして予算化させるように要求すべきでは？</p> <p>・新たに購入する排水ポンプ車はなぜ4台だけなのか？（浸水地区は5ヶ所）。再び被災することを考えればここで予算をケチっている場合ではないのでは？諏訪地区には最大級の排水ポンプ車を配置してほしい。当日慌てて国からポンプ車を借りるのではなく、台風上陸前に予め現地に配備を行い、二度と床上浸水のないようにしてほしい。実際に沿線道路にポンプ車を起き、ホースを伸ばして排水訓練を行うこと。技術的な訓練だけでなく、関係部署を巻き込んだ運用のリハーサルを必ず定期的（毎年雨季到来前）に行い、新たに異動してきた職員もすぐに動けるようにしておくこと。</p>	<p>排水ポンプ車については、浸水被害を軽減できる補助的な対策として考えております。</p> <p>台数につきましては、東日本台風における浸水5地区において、現有する排水ポンプを含め、同時対応が可能となる4台を最低限必要な台数として導入しました。しかしながら、状況によっては、より多くの排水ポンプ車を必要とするケースも想定されることから、国や他自治体との連携について幅広く検討を進めてまいります。また、運用想定に基づいた実地訓練や情報伝達訓練を定期的に行い、操作員の習熟度向上を図ってまいります。</p>

14. ゲート操作手順の見直しについて

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・山王町のゲート閉止判断の時間は何をどう聞いても閉止の指示が遅すぎる。閉止判断はポンプ場が水没しそうになったことで、「ポンプ場を救うためだけに、やっとゲートを閉止することを判断した。」としか聞こえない。ゲート閉止する判断の基となるマニュアルも、「排水樋管で河川水が逆流していても市中で降水している。もしくは降雨警報が発している場合にはゲートを閉めない」となっているとのことだが、目の前のマンホールで溢水していて、どんどん浸水被害が拡大している現場を見ているのに、「マニュアルに降水とあるからゲート閉止できない」という総合的な判断には全く納得できない。街に降っている雨水を河川に逃がさなければ、洪水の危険性があるのは当たりまえですが、それは河川に流す排水樋管が順流であることが前提。もし河川からの逆流が始まっていれば、「市中に降っている雨水」+「川から逆流している河川水」の両方で洪水被害が拡大するのは誰が考えても当然と思う。排水樋管の河川水逆流があるときには市中で雨が降っているようだが、警報が出ていようがまずは河川からの逆流水を止めるためにゲートを閉めることをルール化し厳守すること。</p> <p>・ポンプ場の無い排水樋管ゲートでは、手順を見直したところで、職員は内水氾濫の責任が自身に及ぶのを恐れて、ゲートを閉めることはできないと思う。</p> <p>・地盤高を多摩川の水位が越えれば、どれほど降雨があろうと、ゲートを閉めなければ河川水が流入する事は当然なので、操作手順の誤りを率直に認め、河川水が流入しているにもかかわらずゲートを閉めなかったために甚大な水害が起きてしまったので、「今後は順流なら開、逆流なら閉に変更する」と言うようにわかりやすい文章にすべきです。</p>	<p>今回の事象を踏まえ、水位や流向等を把握するための観測機器を設置いたします。</p> <p>今後のゲート操作は、観測機器を活用し、各排水樋管ごとの状況により開閉の判断を行なうことが可能となり、逆流させないことを原則として、排水樋管内での水の水位や流向を確認し操作することとしております。</p> <p>この見直しにより、逆流時はゲート閉鎖をすることとなりますが、降雨がある場合は排水先がなくなることから、排水ポンプ車により内水の排除を行うこととしております。</p>

15. 短期的対策による効果の検証について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・ゲート付近の個々のマンホールを人を張り付けて見つめているのか、水位計を置いて遠隔で監視するのか、遠隔監視の場合、ゲート操作に人を遣すのにきわどいタイミングになっており、実行上防災体制の構築、人員の配置などを考えると遅れ操作にならないか防災体制の運用が若干気になる。</p> <p>・水位計等と連動した自動閉門とするべき。(洪水時に危険をおかして、現地に職員が行かなければ作業ができない等もってのほか)</p>	<p>防災体制の運用につきましては、13. 活動体制の見直しに記載のとおり、動員体制や応援体制の見直しなどを進めていくことが重要だと考えておりますので、今後も取組を進めてまいります。</p> <p>ゲートの操作は、樋管周辺の安全確保や動作状況の確認を行う必要があることから、現地操作を原則としています。水位計等と連動した自動閉門については、今後、導入の可能性について検討してまいりたいと考えています。</p>

16. 中長期的な対策の方向性について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・内水氾濫対策として、ポンプ場の設置のほか一時貯留設備、緑地保全など流域対策も有効と思う。</p> <p>・各排水樋門にポンプ場を設置すべきと考える。また、各排水樋門が無い地域も、緊急時にその地域毎(小中学校単位位で)のある一定の時間の雨水を貯水できるような、大規模な貯水槽の設置を望む。</p> <p>・提案されている対策の他に、各家庭や事業所・店舗などに中・小規模の貯留槽の設置などを補助金を出して促進するような新たな思い切った対策も必要。多摩川流域には大規模な遊水施設を作るスペースなど無いので、大型公共事業スタイルの対策には限界がある。</p>	<p>中長期的な対策につきましては、いただいた御意見も踏まえ、時間軸を考慮した段階的な整備や各メニューを組み合わせた対策について、実効性のある手法の検討を進めてまいります。</p>

17. 河川管理施設に係る国の通知について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省通達において、逆流を確認したときはゲート全閉が原則とされていたにもかかわらず、本件災害前から、操作手順書の見直しがなされなかったことの可否の検証が不足している。 ・6月の国交省通達が局内で共有されず、ゲートの開閉判断の見直しをすることなく台風19号を迎えてしまった反省が全くない。国の通達を無視した市の責任を認めるべき。 ・樋門は河川に接し、河川敷の中にある河川管理施設です。河川の考え方に従うのは当然です。その指針を河川課から下水道部に送ったにもかかわらず無視、あるいは紛失したことは、河川管理施設の取り扱いに関するルールを逸脱した振る舞いです。下水は河川と違うと言うなら下水にどのような指針があるか示すべきです。 	<p>当該通達につきましては、河川法に規定する河川管理施設の操作規則の作成基準を示したものであり、構造上の特徴が異なる下水道施設に適用させることは難しいと考えております。</p> <p>今後は、排水樋管に水位計や流向計などの観測機器を設置しますので、河川の考え方も参考にしながら、樋管ゲートの操作基準を見直してまいります。</p>

18. 住民への説明・周知について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・このような検証委員会のとりまとめ内容は川崎市のホームページにひっそりと乗せるのではなく、被害にあった住民にまず説明すべきではないでしょうか？もっと被害があった住民によりそった説明・対策をお願い致します。 ・諏訪地区における車の移動については、私自身は以前から臨時の駐車場できる事を承知していた事と、住居が1階道路に面しているなどの環境の為移動することが出来ましたが、広報車の情報は聞き取りにくいと思えました。賃貸物件所有者のため住人の皆様にお知らせにまわりましたが、気づかれていた方はいませんでした。また今後は駐車場へ移動される方増えると思いますので、その点も検討する必要があると思います。 	<p>今回の検証結果については、住民説明会の実施、ウェブサイト・各公共施設での掲示等により住民の方へ広く情報提供を行っていく予定です。</p> <p>災害発生時の住民への周知方法については、市の関係部署とも連携し、より効果的な情報提供を行えるよう検討してまいります。</p>

19. 多摩川について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・台風時の多摩川の水位は各種検討の前提として扱われているが、台風時の多摩川水位を下げられないのか。 ・小河内ダムの緊急吐出力に関するシミュレーションがなされていないのはなぜか。もっと事前放流しておいて、緊急放流せずとも良いように計画するよう申し入れをしていただきたい。また、多摩川の水位を下げるための視点が感じられないが、なぜか。 	<p>多摩川流域における治水対策としては、国や関連自治体等が連携した「多摩川緊急治水プロジェクト」でまとめられており、河道の土砂掘削や樹木伐採による水位低減や既存ダムの洪水調節機能強化等に取り組んでいくこととしています。</p>

20. 内水ハザードマップについて

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市は、今回水害が異常気象によるもので、予測ができなかったとしているが、異常気象は昨年初めて起こったものではない。現に横浜市は、すでに2015年度に内水ハザードマップを公表している。一方、川崎市のマップ完成は2020年目標であり、極めて遅い。 	<p>内水ハザードマップにつきましては、過去10年間の大雨による家屋の浸水被害状況を地図上に示した浸水実績図を、平成18年度から毎年更新し、公表しております。地球温暖化などによる大型の台風や短時間降雨の増加など、過去に経験したことのない災害の発生や、今回の台風のように多摩川が観測史上最大の水位を記録し、浸水実績図で表示していない地区においても浸水が発生したことなどを踏まえ、内水ハザードマップ作成の取組を令和2年度の完成を目指し、進めてまいります。</p>

21. 再発防止について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・原因を正しく検証し情報公開し再発防止に全力で取り組んでほしい。 ・過去の浸水時に現地調査に来ていたにも関わらず放置をした、その危険予知能力や感度のなさを反省し、今後は死者や被害が出る前に先手を打つこと。地盤高が多摩川水位より低い地区がはっきりしているのに、なぜ真剣に治水をやらなかったのか。やれないなら住宅地にすべきではない。過去の浸水や西日本豪雨を自分ごととして捉えていない。 ・今回の検証をもとに、今後も必ず検討を継続していただきたいと思います。開閉の判断が難しい事は理解できますが、よりの確な判断をするためのご尽力を願います。 ・浸水に関する説明を聴くたびに、どう考えてもこれは「人災」だと思えてなりません。今後も起こりうることで、今後にむけて被害を少しでも防げる様、水門の操作、判断など、維持管理をしっかりとしていただける様をお願い致します。 ・防災は国にとって大切な事項だと思います。国民が、安心して住める様に、国、県、市、区が、普段からしっかりと連携を取って下さい。今回焙出された問題点を、一つ一つ地道に解決して頂けたらと思っております。再発防止を望みます。 	<p>今回の台風における活動状況の振り返りや操作判断の検証などから、排水樋管ゲートの操作手順や活動体制を見直し、今夏の台風シーズンまでに実施する短期的対策を着実に進めてまいります。</p> <p>また、再発防止に向け、中長期的な検討を進めることも重要と考えておりますので、今後も、浸水被害を最小化する方策等についての取組を進めてまいります。</p>

22. その他

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の用水路の受益者は誰なのか情報公開してほしい。今回内水氾濫した地域は都市化が進んでいるので雨水処理の計画を見直し、開渠の用水路は廃止すべき。 ・二度と同じ繰り返しを起さない様に、敏速で正確な避難指示をお願いしたい。場所、地域によって温度差があっては困る。 ・マンホールや農業用水からの浸水を防ぐのを先決に考えて欲しい。 ・多くの地域の雨水が、樋門のある地区に集まっている現状をかながえると、樋門のある地域だけでなく、市全域に、緊急時に使用する貯水槽などを整備すべきと考える。 	<p>地球温暖化などにより大型の台風や短時間降雨の増加など、過去に経験したことのない災害の発生や極めて低かった災害の頻発化など、過去の経験が活かされない事象が増加傾向にあり、気候変動を踏まえた対応が必要となっております。</p> <p>今後も、浸水被害を最小化する方策等についての取組を進めてまいります。</p>

4 河川部門

4-1 市民意見の集計結果

No.	内容	意見数	A	B	C	D	E
23	本市の責任・補償について	6	0	0	0	6	0
24	河川全般に関する御意見	12	0	1	11	0	0
25	(河港水門)浸水状況の検証について	2	0	2	0	0	0
26	(河港水門)短期対策について	2	0	2	0	0	0
27	(河港水門)中長期対策について	2	1	0	1	0	0
28	(河港水門)市の対応について	2	0	0	0	2	0
29	(平瀬川)浸水状況の検証について	1	0	0	0	1	0
30	(平瀬川)短期対策について	2	0	2	0	0	0
31	(平瀬川)中長期対策について	3	1	1	1	0	0
32	(平瀬川)連携体制について	2	0	2	0	0	0
33	(平瀬川)市の対応について	3	0	2	0	1	0
34	(三沢川)浸水状況の検証について	64	2	34	9	19	0
35	(三沢川)短期対策について	34	0	22	12	0	0
36	(三沢川)中長期対策について	46	0	10	36	0	0
37	(三沢川)連携体制について	63	0	50	10	3	0
38	(三沢川)稲田公園について	26	0	0	26	0	0
39	(三沢川)大丸用水水門について	62	0	56	3	3	0
40	(三沢川)水路の維持管理について	57	1	26	24	6	0
41	(三沢川)三沢川水門について	48	1	0	3	44	0
42	(三沢川)大丸用水排泥施設水門について	11	0	0	11	0	0
43	(三沢川)市の対応について	9	0	2	2	5	0
44	(ソフト対策)連携体制について	5	0	5	0	0	0
45	(ソフト対策)短期対策について	24	0	12	9	3	0
46	(ソフト対策)中長期対策について	3	0	2	1	0	0
	合計	489	6	231	159	93	0

4-2 報告書に反映させた意見

No.	内容	対象となる市民意見	意見を踏まえた川崎市の対応	区分
27	(河港水門)中長期対策について	第三者意見だけでなく市自らも触れている通り、土嚢による対策は恒久的なものとなりえない。短期対策としても、このたびのような大型台風が来れば、ほぼ役に立たないことは自明である。この流域の川幅で前回並みの増水が起きた場合、土嚢程度は木の葉が流されるような勢いで流出してしまうものであり、短期的な応急処置ではなくたとえ大規模な土木改修作業が必要であっても、大至急に根本的な構造変更に着手すべき。	河港水門の扉体(ゲート)の高さ確保について、当初、土のうによる河床の嵩上げを検討していましたが、第三者意見だけでなく、検討過程でも水密性など様々な問題点があることが明確になったため、令和2年台風シーズンまでに暫定的な対策として、扉体(ゲート)自体の嵩上げの検討を進めています。 また、扉体(ゲート)自体の嵩上げについても、市民や学識者である第三者からの意見も踏まえ、扉体(ゲート)の嵩上げよりも耐久性に優れた対策の検討を早急に行い、令和3年台風シーズンまでに対策を実施してまいります。	A
31	(平瀬川)中長期対策について	過去最大の雨量と多摩川と平瀬川の水位上昇をしている中、市職員が危険を冒して水門操作等の業務に従事するのは、2次災害にもつながりかねない(3.11の津波時のように)このため、今後の対策を施していく上では、確実に施設を動かしていくために、ポンプの固定化や水門やポンプの遠隔操作や自動化が必須だと思います。	今回の浸水被害においては、激しい降雨の中で移動式ポンプへの給油作業が必要であったことや、2台の移動式ポンプが水没した経緯もあったことから、二次災害の防止及び確実な排水作業の継続の観点より、ポンプの自動化等の検討を行ってまいります。 学識者である第三者からも同様の意見を受けていますので、中長期対策の一環として取り組んでまいります。	A

No.	内容	対象となる市民意見	意見を踏まえた川崎市の対応	区分
34	(三沢川) 浸水状況の検証について	<p>・資料の「イ 高さ水量結果や水位データによる検証」では、「三沢川のピーク水位(12日22:00頃)はアクリル板上部やパラペットの護岸の高さ以下であったので、三沢川護岸からの越水は発生していなかったと考えられる」とありますが、22時頃の三沢川の水位(下の図の濃い青の線)を見ると、パラペットの高さ(下の図の黄色の線)を超えているので、この時間に三沢川から直接越水したと思えますが、説明は間違いではないでしょうか。それとも図表がわかりにくいと誤解を生んでいるのでしょうか。</p> <p>・三沢川ピーク水位は(No.0)から(No.16)付近までパラペットより高いので「パラペット護岸以下であった」との検証は誤りです。訂正してください。</p>	<p>資料P4の『1. 浸水状況の検証 (3)【三沢川(JR南武線三沢川橋梁周辺)】イ 高さ測量結果や水位データによる検証』について、ご指摘の通り、誤解が生じやすい表現でしたので、記載内容を修正しました。</p> <p>修正前) 「三沢川のピーク水位(12日22:00頃)はアクリル板上部やパラペットの護岸の高さ以下であったので、三沢川護岸からの越水は発生していなかったと考えられる」</p> <p>修正後) 「三沢川のピーク水位(12日22:00頃)はアクリル板上部以下であったので、三沢川護岸からの越水は発生していなかったと考えられる」</p>	A

No.	内容	対象となる市民意見	意見を踏まえた川崎市の対応	区分
40	(三沢川) 水路の維持管理について	日常の周辺パトロールの必要性和緊急時のパトロールの強化	<p>JR南武線三沢川橋梁周辺地区について、三沢川での今回の浸水被害を重く受け止め、多摩区役所道路公園センターにおけるパトロール経路に追加し、緊急時の体制強化とパトロールの徹底を図ってまいります。</p> <p>また、今回、三沢川の大丸水門付近に水位計とカメラを設置したことから、令和2年台風シーズンまでに情報提供できるよう努めてまいります。</p>	A

4-3 市民意見に対する本市の考え方

23. 本市の責任・補償について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・検証内容において全く触れられていないが、深刻な被害をこうむった被災者への賠償の問題は重要な論点と考える。とりわけ保証内容が不十分だった方々や低所得者層の方々、年金生活の方々にとっては、生活再建は容易ではない。きちんと市の過失を認め、床下浸水の場合やマンション居住者等も含め、必要な人に必要な額の賠償が行われるべきである。</p>	<p>今回の浸水被害については、これまでの想定を超える豪雨等により、多摩川の石原水位観測所などにおいて、計画高水位を超過し、既往最高水位を記録する程の自然災害に見舞われたことに起因するものと考えております。</p> <p>今回の令和元年東日本台風の浸水状況を踏まえた様々な対策を着実に推進するなど、浸水被害の最小化に向けて取り組んでまいります。</p>

24. 河川全般に関する御意見等

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・川崎市は、「JR南武線三沢川橋梁周辺はどうでもいい」という扱いをしているとしか思えない内容があり、非常に残念」。市長はふるさと納税ではなく、川崎市に納税をと訴えているが、このような扱いをされるのであれば川崎市に協力したくなくなる。</p>	<p>三沢川については、国や神奈川県など関係機関と協議調整し、速やかに検証結果に基づく短期対策に取り組んでまいります。</p>

25. (河港水門)浸水状況の検証について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・今回は干潮時の水害だったが、満潮時に重なっていたらと想像するととても恐ろしい。</p> <p>・港町周辺は水門の調査等はしているようですが、下水管など排水について記載がありませんが、どのようにお考えなのでしょうか？問題がないということでしょうか？今回の台風19号にかかわらず度々浸水しますが、その辺の改善は考えてないのでしょうか。</p>	<p>多摩川上流部で観測した既往最高の雨量は、計画高水位を超過したまま下流域へ流下し、河港水門付近においても計画高水位を越える状況の中、河港水門扉体上部からの越水、周辺工場の多摩川取水口からの出水が確認され、川崎区港町周辺で約7haの浸水被害が発生しました。</p> <p>浸水対策については、浸水経路として確認された河港水門扉体ゲートや周辺工場による対策などに加え、タイムライン(防災行動計画)の確立などのソフト対策を推進してまいります。</p> <p>また、河川からの溢水以外の雨水による冠水につきましては、道路や下水道などの管理者と連携して対応してまいります。</p>

26. (河港水門)短期対策について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・もうすぐ梅雨の時期もあるので、なるべく早く対策はしていただきたいです。できればどのような対策になるのかも、きちんと報告をお願い致します。</p> <p>・土嚢を積むのに意味ありますか？人件費の無駄遣いではないでしょうか？大雨でまた水門から溢れば土嚢は流されると思いますが。</p>	<p>河港水門については、令和2年台風シーズンまでの対策として、扉体(ゲート)の嵩上げ工事を実施します。また、京急交差部の閉塞、水位計・カメラの設置などを行います。</p> <p>さらに、令和3年の台風シーズンまでに扉体の嵩上げに代わる対策を実施してまいります。</p>

27. (河港水門)中長期対策について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・浸水した水を排水処理するためにポンプ車の要請をされているが、要請から現地に到着するまでの時間がかかりすぎ。また、浸水が終わってからポンプ車が到着しても意味がない。市は、独自にポンプ車両を備えておくべきと考える。</p>	<p>今回の台風被害を踏まえ、短期対策として、扉体(ゲート)の嵩上げや移動式ポンプの購入を行うなど必要な対策を実施するとともに、中長期対策として、治水機能の向上の観点から、高規格堤防や、水門機能の見直し等、今後の水門及び周辺整備のあり方について、国や、施設利用者及び地元関係者などと連携して検討を進めてまいります。</p>

令和元年東日本台風による浸水の検証に関する市民意見募集結果

28. (河港水門)市の対応について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・以前より、構造上の危険性を指摘されていた箇所であり、事実経過を淡々と述べる検証だけで良いのか。真摯な反省が語られていない。</p> <p>・私の一番の疑問は何故水門の高さが140センチも低いことを浸水するまで分からなかったのか？12月の住民説明会では「まさか水門を超えと思わなかった」と言われましたが、台風が来る前に水門を下げた人がいて、大型台風が来ると分っていて、その人は周囲の土手より140センチ低い水門を見ているはず。危険だと危ないと思わなかったのか？水門がほかの土手より低いことを何人の人が知っていたのか？私も台風の時、もっと上流ですが多摩川を映すカメラを見ていました。川の状況は見えていましたが溢れるまではまだ少しだけ余裕が見られました。でも、あの土手より140センチ低い場所が、自宅の近くにあると知っていたら、危機意識はもっと高かった。市の職員は近隣住民に知らせて万が一水門を超えなかったら違法な状態の水門の事をわざわざ言うことが市にとって不利益と考えたのではないですか？住民の危険より自分たちの不正を隠すために浸水するまで住民に伝えなかった。と私は考えます。もし、違うのならきちんと説明してほしい。自宅の床上浸水は本当にショックで、それが市の不正を隠すためだとしたら市に責任を取ってほしい。</p>	<p>昭和3年に完成した河港水門の改築については、水門背後地への船舶の利用が続いており、ゲートの上部嵩上げなど構造変更を行うことにより、船舶利用への支障が出る恐れがあったこと、水門ゲートの高さが多摩川の計画高水位を満たしていたことなどから、現在まで、ゲート改築が行われていませんでした。</p> <p>今後は、船舶利用がなくなるなど、水門機能を見直すことが可能な状況になったことから、今回の浸水被害を踏まえ、扉体(ゲート)の嵩上げなどの対策を実施してまいります。</p>

29. (平瀬川)浸水状況の検証について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・こちらも過去幾度も浸水被害が発生し、その危険性を指摘されていた箇所である。被害の検証というならば、浸水したエリアの指摘や深度のレポートだけでなく、死亡事故というもっともあってはならない事態を引き起こしている事実に触れないのはいかがなものか、その神経を疑う。真摯な反省が語られていないだけでなく、起きたことの重大性を認識しているとは、この報告からは読み取ることができない。</p>	<p>多摩川上流域で観測した既往最高の雨量は、計画高水位を超過したまま下流部まで流下し、平瀬川との合流点においても水位が上昇し、管理用通路水抜き穴からの浸水、東久地橋桁下からの浸水、平瀬川の堤防からの越水が確認され、約6haの浸水被害が発生しました。</p> <p>今回の浸水状況を踏まえ、平瀬川へのフラップゲートの設置や、パラペット護岸の改良などの短期対策や堤防嵩上げ等の中長期対策について国、神奈川県と連携して検討、調整を進めてまいります。</p> <p>また、緊急時におけるタイムライン(防災行動計画)の確立、町内会や自主防災組織等地域との連携などソフト面での対策を併せて実施してまいります。</p> <p>このような被害が発生しないよう、様々な対策を着実に推進するなど、浸水被害の最小化に向けて取り組んでまいります。</p>

30. (平瀬川)短期対策について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・「東久地橋桁下からの浸水を防止するため、大型土のう等で閉塞する。」は、陸地側と平瀬川でつながっているので土嚢で表面を抑えられても水圧で土嚢の裏に同じ高さまで水面が上昇し、全く効果がない(サイホンの原理)。水が流れていない部分を塞ぐのなら意味がある。</p> <p>・こちら土嚢による対策が、主要な位置付けをされているが、土嚢による対策の効果は前項で述べたとおり大いに疑問である。大規模な基礎工事を伴う改修計画を短期間で実施すべき。当然だが、県と国にも費用負担を求め、財政面で妥協した事業にならないよう徹底して取り組むべき。</p>	<p>東久地橋桁下から宅地側への浸水防止対策については、令和2年台風シーズンまでの対策として、大型土のう等を設置してまいります。この対策は、学識者である第三者から、一時的な対策であればやむをえないとの意見を得ているため、令和3年の台風シーズンまでに土のうに代わる対策を実施してまいります。</p>

31. (平瀬川)中長期対策について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・平瀬川は溝口地域の浸水被害を軽減するため、川の流れを人工的に変えたため、今の流れになっている。特に多摩川合流部はバックウォーター現象によって水位が上がりがやすく、またかすみ堤の影響もある。もともと平瀬川沿いは地盤も低いので、抜本的な対策を行わない限り、また氾濫して浸水被害が出る。地域を浸水災害区域として位置づけ、地域一体の嵩上げか平瀬川の堤防の嵩上げなどの抜本的なハード対策を提案してほしい。まずは地域に要望を聞いて事業化を進めてほしい。</p>	<p>令和元年東日本台風では、多摩川において計画高水位を超える状況の中、平瀬川(多摩川との合流部)においても水位が上昇し、平瀬川の堤防等から越水したことを踏まえ、多摩川との合流部における平瀬川の堤防嵩上げ等の機能強化などについて、国及び神奈川県、川崎市が連携して対策の検討、調整を進めてまいります。</p>

32. (平瀬川)連携体制について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・国と県に対して、必要なお金をきちんと出させて対策を講じてほしい。</p>	<p>多摩川との合流部における平瀬川の堤防嵩上げ等の機能強化などについて、国及び神奈川県、川崎市が連携して対策の検討、調整を進めてまいります。</p>

33. (平瀬川)市の対応について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・住民説明会の議事録が一向にアップされない。いつ議事録がアップされるのか。また時間がかかっている理由は何か。議事録をアップせず、意見募集を行ったのは順番が違う。意見募集の締め切り日である(令和2年3月)27日までにアップしてほしい。</p>	<p>3月30日に川崎市ホームページにて、住民説明会議事録を公開させていただきました。関係機関との確認等に時間を要し、公開が遅くなり申し訳ございませんでした。</p> <p>また、令和2年3月27日から4月30日までの期間に、今後の中長期的な浸水対策等の参考とさせていただくため、「市民の皆様の声」募集について」と題して、ウェブサイト上で意見を募集しており、今後の浸水対策の検討において参考とさせていただきます。</p>

34. (三沢川)浸水状況の検証について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・⑤三沢川の大丸用水の吐き口(フラップゲート)から逆流していた目撃証言についての検証をしっかりといただき、丁寧な分かりやすい説明をしていただきたい。</p> <p>・①5カ所の排水樋管周辺地域は浸水シミュレーションが実施され、三沢川(JR南武線三沢川橋梁周辺)や他の浸水被害地域は浸水シミュレーションがなされていない。担当の建設緑政局道路河川整備部が実施できないのであれば、下水道部にて台風当日の浸水シミュレーション実施した上で次なる被害を防ぐための検証を行うべきです。</p> <p>②河川整備部1章(3)4頁において、「三沢川の水位が水路の高さより上昇しており、一時的に水路への逆流が発生していた可能性も否定できない。水路①のフラップゲートが開放状態、水路④の水門が開口のままだったと記述しているため、水路への逆流に対して適切に措置をとった場合の浸水シミュレーションを実施したうえで、水路への逆流の原因に対して適切な対策を講じるべきことを、強く要望する。</p> <p>・浸水シミュレーションを行い、正しい検証をして下さい。川崎市を守るための検証ではなく、今後洪水被害を出さないためにシミュレーションを行い原因と対策について、もう一度再考して下さい。</p>	<p>浸水原因については、降雨データや河川の水位データ、現地測量、浸水被害状況等から検証を行った結果、多摩川が計画高水位を超える状況の中、三沢川においても水位が上昇し、接続している水路の水が流入しづらくなったためと確認しています。また、浸水経路としては、①水路からの越水、②管理用通路水抜き穴からの浸水、③三沢川のアクリル板の目地からの漏水、の3点を確認しています。</p> <p>浸水地域は、広域な水路網における降雨と流量、三沢川及び多摩川の水位変動等複数の要因が、同時かつ複雑に影響する場所であり、河川分野等の学識経験者である第三者から「東日本台風における当時の浸水状況について、浸水シミュレーション等を用いた精度の高い再現を実施するためには、内水だけでなく、外水による要因も多大なことから、水路のほか三沢川や多摩川等の広域な河川についてモデル化を図り、水門等の施設運転状況や水位等の複雑かつ複数の条件を設定する必要がある。そのため、浸水状況をシミュレーション等で精度よく再現することは、非常に困難、もしくは不可能である」と意見を受けています。</p> <p>今後は、国や神奈川県、稲城市等と、より一層の連携を図り、今回の浸水状況を踏まえた様々な対策を着実に推進するなど、浸水被害の最小化に向けて取り組んでまいります。</p>

35. (三沢川)短期対策について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度雨季に入る前に三沢川に水位計、水流計、カメラを設置し住民に対する情報通知の徹底を図ってください。 ・今回の浸水した経緯の検証をし、次の台風時期の前までに対策、改善をして下さい。大丸用水に関しては改修及び今後の維持管理の徹底を望みます。 ・武蔵小杉などの被害は大きく報道もあり、多くの耳目を集めていると思うが三沢川については二の次になっているような憤りを感じる。今回の報告についても積極的に動いていただいている感じがしない。今年も同規模(もしくはそれ以上)の台風が発生した場合、この被害を糧に被害を防がなければいけないにもかかわらず、それが実施してもらえないのかどうかの不安がぬぐえない。 	<p>三沢川については、令和2年台風シーズンまでの対策として、神奈川県とも連携を図りながら、大丸用水水門の補修、アクリル板の目地補修、水位計やカメラの設置を行うとともに、水路浚渫や流下能力向上、移動式ポンプの配備などを行ってまいります。</p> <p>また、対策の一部については、既に3月中に完了したものとございます。</p>

36. (三沢川)中長期対策について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・稲城市大丸用水取水口において、多摩川から流入した事実確認と原因の検証をし、至急取水口改修工事を実施し、緊急時の完全封鎖を願います。 ・稲城市内側での用水路改善策として、大丸用水の多摩川本流への排水新経路を計画してください。 ・台風19号のような大型台風は、確実にまたやってきます。大丸用水は水量を減らした上で暗渠にしてほしいです。また、定期的に川底の清掃、メンテナンスも行っていただきたい。流域に10年以上住んでいますが、川崎市が点検や清掃をしているところを見かけたことはほとんどありません！！ 	<p>中長期対策としては、当該地区が受け持つ大丸用水の流量を減らす等雨水処理の負担を低減することが効果的であるため、稲城市とも連携を図りながら、水路網調査及び内水対策の検討を進めています。</p> <p>また、内水処理を目的とした移動式ポンプの配備に加え、水路への監視カメラ及び水位計の設置や排水ポンプ車の導入等を検討してまいります。</p>

37. (三沢川)連携体制について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・③三沢川に水位計、水流計、カメラを設置すると同時に稲城市、東京都、神奈川県、国との連携で浸水被害住民の命と財産を守る対策を実施し、確実に連携体制をつくり、備えて下さい。 ・ポンプ車出動が遅かったのではないのでしょうか?早めの対応をしてください ・多摩川、三沢川、大丸用水について国、神奈川県、東京都、稲城市、川崎市などが、どのようにどこまで連携していたのか(あるいはしていなかったのか)責任のなすりつけあいではなく事実が知りたい。 	<p>緊急時における国や神奈川県との連絡体制については、より一層の連携が図られるよう体制を強化してまいります。</p> <p>また、今回の台風で越水が発生した大丸用水については、稲城市とも連携体制を強化すると共に、今後も浸水被害の最小化を目指して取り組みを進めてまいります。</p> <p>併せて、町内会や自主防災組織等の地域との連携について、危機管理室や区役所等の関連部署と検討してまいります。</p>

38. (三沢川)稲田公園について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・地下水の汲み上げによる稲田公園のせせらぎは、経済的にも環境安全からも降雨時には行われるべきではありません。その事に対するマニュアルが今まで無かったのなら、早急に作り、操作を徹底して下さい。また、用水口のメンテナンスは台風が来てしまってからでは遅いです。どのフラップゲートも操作可能なように、雨の季節までにそのチェック・修繕・管理を迅速に進め、管理者はその進展状況を近隣住民に伝えて下さい。 ・稲田公園の地下水汲み上げの適切な時期の停止基準及び訓練の実施。 	<p>稲田公園からの取水については、令和2年台風シーズンまでの対策として稲田公園取水ポンプの改造を行い、大雨時には確実に取水を停止してまいります。</p>

39. (三沢川)大丸用水水門について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・大丸用水の吐き口は、確実な逆流防止機能が期待できる新品に交換して、南武線橋梁横水門の管理者を決めて水門改修を至急実施してください。 ・大丸用水水門は新しくきちんと作動するものに取り換えること。同時に排水機場を作り三沢川水位が上がった時、逆流したときに排水できるようにすること。 ・大丸用水のゲートは管理者不明とのこと。今後の管理やメンテナンスについて説明をお願いします。 	<p>大丸用水が三沢川に流入する箇所の水門については、三沢川の改修にあわせて神奈川県が設置したものであり、三沢川の管理者である神奈川県、大丸用水の管理者である本市など関係者の間で、必要な管理の取り決め等が不明確な状況となっております。</p> <p>そのため、神奈川県等と協議を行い、神奈川県が水門の機能回復を、川崎市が管理・運用を行う方向で調整を進め、今後は適切に管理運営を行ってまいります。</p>

40. (三沢川)水路の維持管理について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・三沢川周辺の浸水について 1、鎖で繋がれたままになっていた水路のフラップゲート、管理責任者不明の用水水門、フラップゲートが欠損したままになっていたパラベット排水口、ゴミが詰まって開いたままのパラベットのフラップゲート。なぜこれらが放置されていたかがしっかりした検証を望む。 ・大丸用水の管理は利権者で行うのではなく、除草した草やゴミを流すことを禁じるなど、使用上の管理と緊急時の対応を川崎市が管理徹底していただきたい。 	<p>水路の浚渫、清掃や流下能力向上のため工事に合わせて、定期的なパトロールなど適切な維持管理に努めてまいります。</p>

41. (三沢川)三沢川水門について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・そもそも、三沢川水門を全閉あるいは閉じたり開けたりしていたことを住民に知らせていないことが問題である。住民は三沢川水位が上がってきていることは知っていた。水門を閉めればどこから流れ出すのは想像できるのに。第三者は「三沢川水門を閉鎖した際に水位が上がることを知らない住民もいる…」などとまったくとぼけたことを書いているのは許せません。 ・多摩川の水量がどうなったときに三沢川水門が閉まるのですか。 ・今回の浸水原因を十分検証し、実態に即して、三沢川水門操作マニュアルを、水位計による操作だけでなく、浸水危険地域の状況確認をしながら、操作を調整していくように改変して欲しい。 ・水門開閉操作の判断基準を示して下さい。 ・川の水位が増した時に、水門は、どこから開きどうなるのか、明確に説明してほしい。 	<p>三沢川の水門操作については、多摩川から三沢川への逆流を防止するために設置されています。</p> <p>国による開閉操作については、逆流の兆候を水位計の値により覚知し、判断を行っていると同様です。令和元年東日本台風の際にも、逆流を覚知して開閉操作を実施し、その後、水位の変化を確認しながら水門の開閉操作を行い、逆流を防いでいたと考えられております。</p> <p>今後、国が行っている三沢川水門の操作作業の情報等を地域住民へ確実に発信してまいります。</p>

42. (三沢川)大丸用水排泥施設水門について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・大丸用水、稲城取水口、排泥施設の水門からの流入についての検証と、関係者調整を早急に行って管理体制強化改善を行っていただきたい。そして、住民にわかりやすく説明してください。 ・大丸用水の取水口(稲城市)排泥施設の水門からの流入についての検証、改修、住民への説明を求めます。 	<p>排泥施設水門については、扉体高さが低く多摩川から水が流入していたため、浸水地域に影響していたことも考えられます。そのため、当該箇所の止水対策について稲城市と連携し取り組んでまいります。</p> <p>住民の皆様には、検証委員会の結果取りまとめの報告や、説明会等で、解りやすく、丁寧にご説明してまいります。</p>

43. (三沢川)市の対応について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・水害対策の1つには現場で動ける行政の職員を大幅に増やすこと。通報しても誰も来ない、台風後もなかなか市の職員は現地に来れない体制では自治体の責任は果たせない。 ・今回の水害で菅稲田堤三丁目住民は17:05冠水確認まで全く浸水危険状況を知らされておらず、そればかりか18:25に手配したポンプ車が来るまでの間に何も対応してくれなかったために被害が拡大したと思います。5～6時間何も知らされず放置した責任は大きいと思います。 	<p>JR南武線三沢川橋梁周辺地区について、三沢川での今回の浸水被害を重く受け止め、多摩区役所道路公園センターにおけるパトロール経路に追加し、緊急時の体制強化とパトロールの徹底を図ってまいります。</p> <p>また、緊急時におけるタイムライン(防災行動計画)の確立、町内会や自主防災組織等地域との連携などソフト面での対策を併せて実施してまいります。</p>

44. (ソフト対策)連携体制について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・2度もこのような水害が起きているにもかかわらず、水害対策が不備すぎ。浸水被害住民の命と財産を守る対策を確実に連携作成を必ず作ってください。 ・防災は、国にとって大切な事項だと思います。国民が安心して住めるように国、県、市、区が普段からしっかりと連携を取ってください。今回あぶりだされた問題点を一つ一つ地道に解決していただけたらと思っております。次もまたが無い事を望みます。 ・行政側の連携が必要です。 	<p>緊急時における国や神奈川県ほか近隣自治体との連絡体制について、緊密な連携が図られるよう体制を強化し、今後も浸水被害の最小化を目指して取り組みを進めてまいります。</p> <p>併せて、町内会や自主防災組織等の地域との連携について、危機管理室や区役所等の関連部署と検討してまいります。</p>

45. (ソフト対策)短期対策について

主な市民意見	川崎市の考え
<ul style="list-style-type: none"> ・浸水被害を受けた住民には強い連絡体制が構築されましたので、関連行政側も急ぎ体制づくりを願います。 ・当地域では浸水状況の情報伝達が全く無かった。業務連絡網(TEL、メール、情報カーetc)の整備、再構築を強く要望します。 ・水害等緊急時の要因配置(市、区)体制を整備下さい。 ・冠水の放送がほとんど聞こえませんでした。複数の連絡手段を使うよう検討してください。 	<p>緊急時における国や神奈川県ほか近隣自治体との連絡体制について、緊密な連携が図られるよう体制を強化し、今後も浸水被害の最小化を目指して取り組みを進めてまいります。</p> <p>水位計及びカメラの情報をホームページにて公表すると共に、国及び神奈川県より得た情報を、メールニュースかわさき等を通じて地域住民へ情報提供してまいります。</p>

46. (ソフト対策)中長期対策について

主な市民意見	川崎市の考え
<p>・中間取りまとめの参考資料においてタイムラインの例示がされている。当方でもタイムラインは有用で、各マンション等の管理組合や自主防災組織での策定が推奨されてくるものと理解している。一方で他の自治体の取り組みをみると専門家などを招き策定を行なっているようであり、それに対して予算措置をとっているようである。</p> <p>・上記をふまえ管理組合や自主防災組織ごとあるいは複数の組織が共同で各々のタイムラインを設定する取り組みを行う場合、川崎市側からの技術的な助言や費用補助等をお願いしたい。これについて実施が困難であればその根拠等をお聞かせ願いたい。</p>	<p>住民一人ひとりの防災に対する関心を高める取り組みとして、町内会や自主防災組織等の地域と連携し、水害リスクを周知するためのワークショップや防災フェアの開催など実施してまいります。</p>